

私の履歴書

釜本 邦茂

⑬

やっと触れるようになった。

デアバルさんは後に西ドイツの代表監督になり、82年ワールドカップ(W杯)で準優勝する名将である。「シユー

はポルトガルのベンフィカにいた頃の絶頂期のエウゼビオ。王様ペレはいくら見てもまねるのは無理だった。

ザールブリュッケンにブン

デスリーガ2部のクラブがあり、その一員として1部の

飛んだ。出発10日前にデアバルさんに医務室に呼ばれて体重計に載せられた。78キ。おまえのベストは「の問いに「75キ」と答えると、メキシコま

メキシコ五輪予選を挟んだ1967年の第3回日本サッカーリーグ(JSL)は6勝6敗2分けの5位に終わった。10月15日の後半戦から登場したネルソン吉村は好パスを連発。私は最終戦に4得点し14点まで数字を伸ばしたが、古河電工の木村武夫に1点及ばず、新人で得点王とはいかなかった。

岡浩二郎部長が西ドイツへのサッカー留学を用意した。期間は約2カ月。行き先はフランスと国境を接したザールブリュッケンのスポーツシュール。68年1月に西ドイツ五輪

トで一番大事なのはタイミング。いいタイミングを生むのは姿勢で、ゴールが見えたら後はDFは無視してベストのフォームで蹴ることだけを考

えろ」と助言してくれた。私の体重は75キだった。異常に調子がいいのに驚いた。ドイツ流? この調整法は五輪本番でも使えると思った。

西ドイツに留学

名将の下 2カ月技磨く

古今の名勝負 映像見て研究

代表と試合をした後、帰国する彼らについて渡独した。初めての一入旅だった。

放り込まれたのは若きプロ予備軍の群れ。練習、試合はプロのクラブや州選抜の選考の場で選手はアヒールに躍起になる。よそ者の私にパスは来ない。コーチのユップ・デアバルさんに苦情をいうと「パスを出す側に回れ」。F



1982年W杯でのユップ・デアバル監督(左)＝フォート・キシモト(中)と提供された。

「サラダと肉とパスタはいい。スープとジャガイモは食べさせるな」と寮のコックにまで指示を出した。

前年は1勝11敗2分けの最下位だったから私を含め11人も新人を補強したかいはあったのだろう。怖いと思ったのは、早大の4年間の負け数に匹敵するほど1年で負けたのに、そのうち慣れて腹も立たなくなったことだ。

そんな私にサッカー部の山

WからMFになってボールに

映像でも一番参考にしたの

3月20日。その足で日本代表に合流するためにメキシコに

内図書館に試合のフィルムがあるのを知っていた。映画機の使い方を教わり、53年にハンガリーが6対3でインクランドを下した世紀の一戦など古今の名勝負を浴びるほど見たのは、良いイメージトレ

ニングになったようだ。

ドイツに別れを告げたのは

3月26日、標高2200呎のアステカ競技場の強化試合で日本はメキシコに0-4で負けた。五輪本番を半年後に控え高地のきつきを知ったこと。勝ったメキシコが日本を軽く見たこと。これらは銅メ

ダルの伏線になったと思う。(日本サッカー協会顧問)

そんな私にサッカー部の山

WからMFになってボールに

映像でも一番参考にしたの

3月20日。その足で日本代表に合流するためにメキシコに

3月26日、標高2200呎のアステカ競技場の強化試合で日本はメキシコに0-4で負けた。五輪本番を半年後に控え高地のきつきを知ったこと。勝ったメキシコが日本を軽く見たこと。これらは銅メ